

## 郷土史研究の動向

— 昭和六十二年 —

福井県立図書館郷土資料室

### 一 県史・市町村史・地区誌

県史では『資料編一古代』と『資料編六中近世四』が出版された。古代は文治元年（一一八五）までの関係史料を東大寺領莊園関係文書など十一の項目にわけて収載している。中近世四は武生市と今立・南条両郡の中・近世史料を対象としたもので、九三家・約九五〇点の文書を精選し収録している。『福井県史研究五』も刊行された。

市史では『武生市史資料編 社寺の由緒』、『大野市史七図録文化財編』、『小浜市史諸家文書編四』が出版された。武生市史は近代における管内社寺の実態を明らかにするため

神社では「神社明細帳」(明治十二)、寺院では「寺院規則認証申請書」(昭和十七)を基本史料として掲げている。大野市史は絵画・彫刻など一二項目にわけて一九五〇年の文化財を収録している。小浜市史は諸家文書編の最終巻で、国富など八地区の七一家・七二六の史料を収めている。なお、小浜市では「小浜市史紀要六」を刊行した。

町村史では、『永平寺町史 史料編』と『宮崎村誌別巻』が出版された。永平寺町史は中近世文書三三三点を収録し、そのうちには町外文書七三点も含まれている。宮崎村誌は全四冊の最終巻で、民俗・文化財・史料など七項で構成されている。

地区誌では、昭和三十八年の豪雪を機に廃村となった勝山市北谷町中野侯の記録『ふるさと 中野侯』が有志の努力で出版された。

## 二 原始・古代

考古学の調査報告書として『福井県埋蔵文化財調査報告一 二 柴山崎遺跡』・『鳥浜貝塚一九八七』(県若狭歴史民俗資料館)・『鳥浜貝塚一九八五年度調査概報』(県若狭歴史

・『岩の鼻遺跡一九八五年度調査概報』(県若狭歴史)・『岩の鼻遺跡二一九八六年度調査概報』・『武生市埋文調査報告三 愛宕山遺跡群一』・『武生市埋文報告四 王子保窯跡群第一次調査概要報告』・『武生市埋文報告五 小丸城跡』・『武生市埋文調査報告六 新町遺跡第一次調査概要報告』・『鯖江市埋文調査報告 西山古墳群』・『上中町文化財調査報告五 三生野遺跡』が刊行された。鳥浜貝塚の一九八七年版は、副題に「一九八〇—一九八五年度調査のまとめ」とあり、縄文期の低湿地遺跡として全国的にも著名な当遺跡の最終報告書となっている。

論文では、『福井県史研究五』に白崎昭一郎「道守・糞置両庄の形成過程と足羽郡条里」、小浜市史紀要六」に三國正二「小浜八幡宮の草創と遷祀をめぐって」、福井の文化財を考える会々報三三二」に戸田芳実「北陸の古道」が収載されている。『福井考古学会誌五』では齋藤優先生喜寿記念号として巻頭に同氏の昭和十二年の労作「若越条里の研究」を掲げ、その他では白崎昭一郎「三角縁神獣鏡の考察」・白崎卓「福井県における舟型

石棺の変遷について」・青木豊昭「経ヶ塚古墳と朝日山古墳について」・古川登「若狭城山古墳の再検討」・久保智康「越前南部の古代寺院と生産遺跡の動向について」・山本昭治「越前における板碑の一例」・田中照久「玄達瀬から発見された越前焼」の諸論文を収録している。

## 三 中近世

中世関係では「特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡一八 昭和六一年度発掘調査概要」(県朝倉氏遺跡資料館)・『堀江氏館跡の考察』(本荘郷土史研究会・芦原町本荘公民館刊)・『福井県の中近世城館跡』(県教委)が刊行された。中近世の城館跡調査は朝倉氏遺跡資料館が昭和五三・五四両年度に実施したもので、調査を担当した水野和雄は「福井の文化一」に「福井県の中近世城館跡」としてその概要を寄稿している。

近世では福井市郷土歴史博物館史料叢書五の『中根雪江筆橋本左内事跡』、松岡町教委より越前の代表的鑄物産地である芝原鑄物師の調査報告書『松岡の鑄物一』、県若狭歴史

民俗資料館の『日引遺跡』、福井藩の別邸である江戸中期の代表的名園の『御泉水第の建築的研究』（福井建築史研究会）が出版された。

論文では、『県史研究五』に網野善彦「中世の海村若狭の浦々」・齋藤嘉造「越前府中領主本多富正とその差出し文書について」・岡田孝雄「古絵図が語る若狭の浦々」が収載されている。『敦賀論叢二』（敦賀女子短大）には荻原勝「小瀬雨庵『太閤記』を中心とする大谷吉継の軌跡」、遠藤恵美子「酒井氏の小浜封入と幕府の若越支配」が収められている。『県立博物館紀要二』には村野隆男「越前康継の分立について」、小浜市史紀要六」には春田直紀「中世後半における生鮮海産物の供給」若狭国御賀尾浦の美物を中心に」・中島葉子「敦賀」琵琶湖間運河開削計画」安政年間の計画を中心に」・堀口越代「若狭における茶の一考察」・垣東初音「小浜藩における天保一揆の研究」が収録されている。『若越郷土研究一八二—一八七』には春松進一「越前を通過した巡見使の姓名と回数」（一八二）・坂田玉子「内山隆佐日記」安政三年の北海道道南地方探険調査」（一

八三）・山下英一「グリフィスと白山」（一八四）・竜溪信行「グリフィスによる白山の高度測定について」（一八四）・山本昭治「春江町井向白山神社の板碑」（一八二）・同「麻生津付近の石造遺物」（一八六）があり、『高志高校』研究集録一五』には矢尾毅一「古越前試論」戦国時代から近世初頭における窯址分布」が収録されている。

#### 四 近現代

『半世紀のあゆみ—保健所法施行五〇周年記念誌』（福井県）・『福井県警察史一』・『市制施行五〇周年記念写真集・ふるさと敦賀の回想』（敦賀市）・写真で語るまつおか（松岡町教委）・福井県農業共済史全二巻（本編・資料編）（県農業共済組合連合会）・『西藤小学校百年誌』・萩野小学校百年誌』・『福井人絹会館五十年史』（福井人絹倶楽部）・『おいしい水は宝もの』（大野の水を考える会編・築地書館）・『国鉄敦賀』JR旅立ちちまでの一〇五年』・三上夫「明治初年真宗門徒大決起の研究」越前護法一揆分析」（思文閣）・土田誠「福井県会

騷動記」戦後の裏面史』（福井新聞社）・『元警察官谷内嘉造からの聞き書き』（谷内嘉雄・谷内文雄）などが出版された。警察史は全二巻の初巻で大正末までを対象とし、農業共済史は昭和二十二年に施行された農業災害補償法の四〇周年を記念する四十年間の歩みで、人絹会館史は昭和五十年の人絹取引所廃止を機に取り毀された同館の沿革と関係者の回想をまとめたものである。『おいしい水は宝もの』は地下水（お清水）を守るための大野市の主婦を中心とした十余年におよぶ市民運動の活動記録としてユニークである。

論文では、『県史研究五』に齋藤健次郎「福井県下有力地方銀行の成立過程」織物金融を中心として」、『県立博物館紀要二』に山形裕之「明治期における小浜入津の諸国廻船について」、『福井工大研究紀要一七』に三上夫「戦時下の産業組合活動の質的転換について」福井県丹生郡旧越廻・下岬両村の事例を中心に」、『高志高』研究集録一五』に橋弥代治「福井県における行政区域の変遷」、『道守論叢一〇』に西村義宣「工業開発に伴うらつきよう生産地の変容」福井県三里

浜地域を例として」などがあつた。『福井の科学者四七』には隼田嘉彦「十五年戦争と福井空襲」が掲載されている。

## 五 その他の文献

『鯖江八ヶ用水沿革史』（鯖江市八ヶ土地改良区）・『ザ・ヤトイ』お雇い外国人の総合的研究（同書編集委員会・思文閣刊）・『若狭かみなかの文化財』（上中町教委）・『豊原寺跡』（丸岡町教委）・『大味水川神社誌』（国京茂助著・刊）・『池の水は涸れませんか』（柴田源三郎著・刊）が出版された。八ヶ用水沿革史は三百年にわたり鯖江台地の水田五〇〇余町を灌漑した用水について基本史料にもとづきまとめた労作で、ザ・ヤトイは昭和六十年十月に福井市で開催された第二回「ザ・ヤトイ」国際シンポジウム福井大会の研究成果のすべてを公開したものである。なお、研究発表の一つ「グリフィスの化学講義ノート」の本文と注解は、日下部・グリフィス学術・文化交流基金から別に刊行されたことも付記しておく。『池の水は涸れませんか』は、敦賀市文化財保護審議会委員で国の

指定名勝「柴田氏庭園」の所有者でもある著者が、文化財保護に関する自らの活動記録をまとめたものである。

論文では、『えちぜんわかさ八』が越前・若狭の祭を特集し、斎藤槻堂「太田新保の七夕」・佐野光臣「池河内の御神事太鼓踊」・小林一夫「若狭新庄の八朔」を収め、『敦賀市歴史民俗資料館紀要二』には、愛宕速雄「氣比大神と古代習俗―産小屋習俗等と祭神神事に関する一考察」・塩津三治「敦賀半島西浦地区の産習俗」が収録されている。『奥越史料一六』は観光資源としての歴史的遺産に着目し、岩崎正「大野盆地を巡る山麓・丘陵地帯の遺跡を見直す」・坂田玉子「城下町大野の道路と町角の屋号」・岩井孝樹「奥越の山岳信仰遺跡と遺品序説」等を収録している。『若越郷土研究一八二―一八七』には小林一男「入会林野管見」（一八二）・小畑昭八郎「酒井家文庫目録編集あれこれ」（一八五・一八六）・橋川禿「旧足羽郡酒生村篠尾の今昔」（一八五）・斎藤興次兵衛「田島村のあゆみ」（一八六・一八七）がある。『朝倉氏遺跡資料館紀要一九八六』には森沢佐歳・松

田健史「一乗谷朝倉氏遺跡出土人骨について」、南洋一郎「漆椀・皿に関する二、三の問題―一乗谷出土の漆製品の観察結果から」が収められ、『県立短大紀要二二』には草野正裕「移行期における米価変動と地域差―勝山と大阪一七八―一九一五」が収録されている。

## 六 歴史研究施設の動向

県立博物館では春季特別展に「曳山」展、秋季特別展として「山々への祈り―越前五山の神と仏」展を開催した。県若狭歴史民俗資料館では開館五周年を記念し秋季特別展として「若狭の秘仏」展をおこなった。福井市郷土歴史博物館では昨年度に引き続き「足羽山の今昔」展を開催している。町立の資料館では三方町の「湖の漁具」展と三国町の「三国焼」展が開催された。「湖の漁具」展は三方五湖周辺の遺跡から出土した漁具や関係古文書、伝統漁法の紹介資料を展示しており、「三国焼」展は大正期に廃窯となった三国焼を三国湊の盛衰を背景に紹介している。上記の特別展ではいずれも図録を出版しているが、福井市郷土歴史館が刊行した史料解説

は昭和六十一年度開催分である。

なお、「山々への祈り」展に関連し、『福井の文化一一』では長坂一郎「白山信仰の歴史」、本川幹男「越前白山信仰」を掲載している。

道守論叢一〇（道守高校）  
資料館年報一九八七  
○若狭歴史民俗

## 七 郷土雑誌

郷土研究にかかわる誌名と号数のみを参考までに紹介したい。

- 朝倉氏遺跡資料館紀要一九八六 ○えちぜんわかさ八（福井民俗の会） ○奥越史料一六（大野市教委） ○小浜市紀要六 ○研究紀要一二（県立短大） ○研究紀要一七（福井工大） ○研究集録一五（高志高校） ○若越六三 ○若越郷土研究一八二―一八七
- 敦賀市歴史民俗資料館紀要二 ○敦賀論叢二（敦賀女子短大） ○武生市史編さんだより一六 ○福井県史研究五 ○福井県立博物館紀要二 ○福井県埋蔵文化財センター年報六〇年度 ○福井考古学会誌五 ○福井考古学会会報一七 ○福井市立郷土歴史博物館々報一二 ○福井の科学者四七 ○福井の文化一〇・一一 ○ふくい無形民俗文化財九 ○